

テーマ：雇用関連統計（2012年5月）

発表日：2012年6月29日（金）

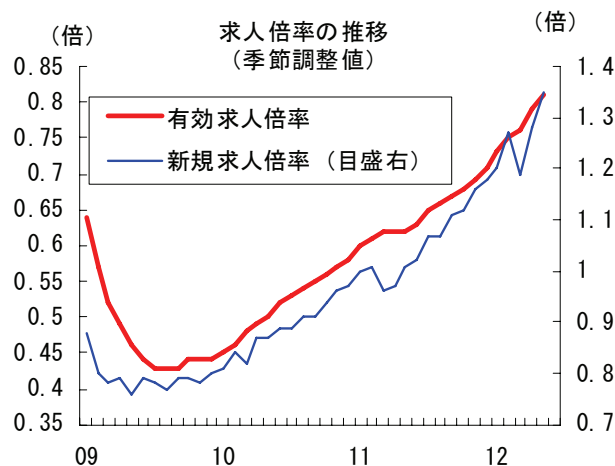
～失業率は前月から改善したが、内容は悪い～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 失業率は前月から0.2%ポイントの改善だが、内容は悪い

総務省から発表された2012年5月の完全失業率は4.4%となり、前月から0.2%ポイント改善した（市場予想：4.5%）。もっとも、就業者数は季節調整済み前月差▲10万人、雇用者数は同▲9万人と共に減少している。今月失業率が改善したのは、もっぱら労働市場からの退出が進んだことによるものであり、内容はむしろ悪い（労働力人口も前月差▲20万人）。

就業者数は2012年2月に前月差+29万人と増加した後、3月に▲17万人、4月に▲16万人、5月に▲10万人、雇用者数は2月に前月差+5万人の後、3月に▲26万人、4月に▲5万人、5月に▲9万人と、揃って3ヶ月連続で減少している。後述の求人動向とは裏腹に、雇用は足元で弱含んでいるようにも見える。昨年の震災後に雇用が大幅に減少した後、秋以降には下げ止まりの動きがみられたが、その後の改善は遅々として進んでいない。毎月勤労統計では常用雇用が若干ではあるがプラスとなっていることもあり、実際に雇用が減少しているかどうかははっきりしないが、いずれにしても雇用情勢が芳しくないことは間違いない。

○ 求人は改善傾向続くが、ミスマッチの存在により雇用の伸びは限定的

一方、雇用の先行指標である求人は改善が続いた。厚生労働省から公表された有効求人倍率は0.81倍（4月：0.79倍）と、前月から0.02ポイントの改善（市場予想：0.80倍）、新規求人倍率も1.35倍と、前月から0.07ポイントの改善となっており、共にはっきりと改善した。有効求人数は前月比+2.4%、新規求人数も同+3.0%と大幅に増加しており、求人動向は明確な改善が続いている。

有効求人倍率を都道府県別に見ると、特に震災の被害が大きかった地域での改善傾向が著しく、岩手県（23年4月：0.42倍 → 24年5月：1.03倍）、宮城県（23年4月：0.46倍 → 24年5月：1.13倍）、福島県（23年4月：0.50倍 → 24年5月：0.97倍）となっている。岩手県と宮城県は1倍を超え、福島県もあと一歩で1倍超えである。復興需要の本格化が窺える。

だが、こうした求人の増加が雇用になかなか繋がってこない。求人と求職のミスマッチが深刻化していることが背景にあるとみられ、今後も求人が増加する一方で雇用が伸びにくい状態が続くだろう。足元での景気持ち直しが波及することで、先行きは雇用者数も増加していくと思われるが、そのペースは緩やかなものにとどまる可能性が高い。

こうした雇用動向に加え、賃金についても、民間・公務員とも夏のボーナスは減少したとみられるなど、目立った改善はみられない。足元の個人消費は底堅いが、消費の源泉となる雇用・所得環境の改善ペースが今後も緩やかなものにとどまることを考えると、好調さの持続性については慎重に見ておく必要があるだろう。